

### 1、本園の教育目標

- ・より強く・・・健やかな身体を育む。
- ・より明るく・・・豊かな感性と安定した情緒を培う。
- ・よりなかよく・・・社会性を身に付ける。

### 2、本年度の重点目標

新規事業をいち早く軌道にのせ、幼稚園の保育のひとつとして受け入れられ、充実した保育を展開できるようにする。

### 3、評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目	取り組み状況
保育	<ul style="list-style-type: none"><li>・五感を使った保育活動を主とし、主体的な遊びをより深く広げられるように、保育者は目の前のこどもの姿から保育計画を立て、その時に合わせて環境を整え、保育を進めることができた。</li><li>・ポートフォリオを用いて、客観的に子どもの活動を分析し、保育者間で意見交換を行い、次の保育へとつなげていった。</li><li>・週に一回の職員会議の中で、クラスのこどもの様子の情報共有を図り、職員が一丸となり保育に当たれるようにし、保育の質の向上を図った。</li><li>・特別な保育（夜の幼稚園や遠足等）ではサポーターとして保護者の協力を頂いた。より保育の意図を理解頂くため、日案の共有をし、保育後には率直な意見を提出して頂いた。</li></ul>
研修	<ul style="list-style-type: none"><li>・園内外の研修を行い、人間性と保育の専門性を向上させる。 牧場研修（吉川牧場）、野外活動研修（ウレシパモシリ）</li></ul>
2歳児親子プレ「たねのつどい」	<ul style="list-style-type: none"><li>・2歳児親子参加のプレ保育を週一回で行った。主活動として自然物を用いた活動を取り入れる、保育室に常に旬の自然物を自由に使えるよう環境設定をした。保育室を解放することで、在園児も自由に出入りをし、たねのつどいの親子と在園児の自然な関わりがうまれた。プレから満3歳児保育に移行する方が多く、結果として園児の獲得につながった。</li></ul>

満 3 歳児クラス 「ちゅうりっぷ ぐみ」	・今年度より新規開設した満 3 歳児クラス。在卒関係が 7 名、新規で 7 名（内たねのつどいからの移行 6 名）の 14 名が在籍した。入園時期が異なる事で丁寧な関わりができた。園生活の仕方がある程度身に付いているので来年度の 3 年保育のスタートに良い影響を及ぼすことが考えられる。
練馬こども園「た んぽぐみ」	・今年度より新規開設した練馬こども園。一日最長 9 時間半の保育、長期休みを含め 222 日の保育を行った。新入園児の定期利用者は 8 名で、保育園からの転園等も可能となった。専任職員の確保も出来、材職員の実務的な負担も配慮できた。利用のニーズは増え、定員になる日もあった。今後更に定員の増員、保育の充実を図る必要性がある。
発信	・ブログで日々の保育の様子を発信した。年度初めにはホームページ内の写真を入れ替えるなど、出来る限り目に留まる工夫をした。年度途中、サーバーの不具合でホームページ閲覧ができない状況があった。

#### 4、総合的な評価結果

・令和 6 年度より練馬こども園、満 3 歳児クラス、2 歳児親子プレの毎週開催と新しい取り組みがあった。不安要素であった職員の確保は円滑に出来、結果として安定した保育を行うことができた。日常の保育に無理なく馴染み、異年齢の関わりが増えた。保育者はより柔軟な保育を求められるようになり、立ち止まって考える機会になった。また親子プレからの入園者も多く獲得できた。当初保護者からは不安視する声もあったが、役員会等で丁寧に対話を続けたことにより、受け入れていただくことができたように感じている。

#### 5、今後取り組む課題

練馬こども園	・定期利用者が増え、長時間保育が求められる中で、こどもにとってなるべく負担がないように、安心して過ごせる場を作り、教材等の充実を図る。またクラス担任が保護者とのコミュニケーションを取りにくい現状があるため、預かり保育担任がクラス担任、保護者との連携を取り、細やかな関わりを実践していく。
発信	・ホームページの充実を図り、目に留まりやすく、保育の魅力が伝わるような工夫をする。新規事業についても分かりやすく掲載し、また更新していく。

## 6、学校関係者評価委員の評価

- ・令和6年度は5名の委員の方に出席していただいて会議で行う。
- ・試行錯誤より、効率重視の子育てをする家庭が増え、子どもたちの生まれ持った力が育ちにくい環境がある。だからこそ、子どもたちが生涯幸せに生きていくために五感を使った幼児教育が大切であり、清心幼稚園ではそれが行われている。
- ・親は子供の教育に関心はあるが、早期教育に携わらせてしまう人が多いと感じる。子どもを持つ親が、子どもたちには五感を使った体験、経験が必要だということを知る機会が必要なので、清心幼稚園での保育をもっと言語化して広めることが大切だと考える。